

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

4月4日にカリフォルニアで行われた「バレット・スプリングセール」で購買され、当愛馬会にて募集予定の「カースンコピー」の2016の父ストロンギングマンデイトが、今月のこの「ラムの主役だ。今年の2歳世代が初年度産駒となるストロンギングマンデイトは、「血統」、「競走成績」、「子出しの良さ」の三拍子が揃った、期待の若手種牡馬である。

まず「血統」だが、母も、祖母、3代母もG1勝ち馬という、極上の北米血脉を背景に持つている。G1スピニスターS(d9F)、G1シユヴィーH(d8F)、G1ジョン・A・モリスS(現在のパーソナルエクスン)S、d10F)と3つのG1を制したのが、本馬の母クリアマンデイトだ。祖母ドリームデイルは、G1モンマスオーナクス(d8.5F)勝ち馬。そして3代母のライクリー工クスチエンジは、G1デラウェアH(d10F)を含めて通算で23もの勝ち星を挙げた女傑であった。

この牝系は、日本の競馬とも深い縁がある。母クリアマンデイトの、1歳年上の半姉が、G1エリザベス女王杯を制し最優秀古牝馬となつたトウザヴィクトリーの母フェアリードールなのだ。すなわちストロンギングマンデイトは、サイレントディール、デーブ・アンドルビー、プロフェット、トウザグローリー、トウザワールドといった、日本のお馴染みの重賞勝ち馬である。

本の競馬ファンにはお馴染みの重賞勝ち馬である。

馬たちの近親にあたるのである。高い日本適性を有した牝系の出身であることを、ここでぜひ強調しておきたい。

ストロンギングマンデイトは2歳の8月にサトガのメイドン(d6.5F)を4.1/馬身差で制し、デビューア戦目にして初勝利を挙げた。そしてそのわずか16日後に、同じくサトガを舞台としたG1ホープフルS(d8F)に駒を進めた同馬は、後続に9.3/4馬身差をつけて圧勝。100年以上の歴史を誇る伝統の一戦における歴代最大着差をマークして、G1初制覇を果したのだった。すなわち、仕上りが早く、抜群のスピードをもつていたのがストロンギングマンデイトであった。

同馬はその後、G1BCジュヴェナイル(d8.5F)で3着になつてはいるから、スピードだけが頼りの短距離馬ではなかつた。当然のことながらケンタッキーダービー戦線の有力馬となつたが、3歳4月にG1アーカンソーダービー(d9F)を走つた後に、右前膝に剥離骨折を発症。そのまま現役を退くことになった。その父ティーズナウは3歳夏から力を付けていった馬で、母クリアマンデイトもまた重賞初制覇は4歳秋だったから、血統背景を考えるとストロンギングマンデイトは、本格化の時期を迎える前に引退を余儀なくされたと見られるに違いない。

ストロンギングマンデイトの初年度産駒

が1歳馬市場に出回ったのが昨年で、上場された63頭のうち53頭が購買されて84.1%という高い売却率をマーク。平均価格7万8528ドルという上々の売れ行きを示した。中でも、ファシングティップトン・サラトガ1歳市場に上場された母グレイミーシックスの牡馬には、82万5千ドル(当時のレートで約9265万円)という破格値がついている。

産駒の評価が更に上昇したのが、今年に入つて2歳トレーニングセールの季節を迎えてからだつた。3月にフロリダで行われたOBSマーチ2歳市場に、ストロンギングマンデイト産駒は7頭上場されたが、その全馬が公開調教で1F=10秒4より速い時計をマーク。中でも、1Fでは最速タイとなる9秒8の猛時計をマークした母マジエスティックステインガーの牡馬は、セッション3番目の高値となる77万5千ドル(当時のレートで約8215万円)で購入されるに至つた。

そしてバレット・スプリングセールでも、上場された3頭のストロンギングマンデイト産駒は公開調教でいずれも1F=10秒4より速い時計をマーク。そんな中、抜群のフットワークで10秒2を計時したのが、「カースンコピーの2016」だった。

トップサイヤーの座に駆け上がる気配が濃厚に漂う若手種牡馬が、ストロンギングマンデイトである。